

NPO 法人 かながわ環境カウンセラー協議会 (KECA)

KECA ニュース No.72



江の島の夕日 2022年4月 撮影：中村 城治

～目 次～

- | | | |
|-------|------------------------------|-----------------|
| p. 2 | 1. 「2022年活動方針からのトピックス」 | 理事長 真砂文夫 |
| p. 3 | 2. 「会員の自主的活動ができる体制づくり」 | 組織基盤強化グループ 河野健三 |
| p. 5 | 3. 新任理事自己紹介；岸高志、山口和之 | |
| p. 7 | 4. 環境教育委員会活動報告 | 委員長 岡本正義 |
| p. 8 | 5. KECA 会員「田中真次さん」とその活動の紹介 | 横浜支部 大竹順之 |
| p. 9 | 6. 各国 GDP 当りの CO2排出量の推移の見える化 | 岩村順雄 |
| p. 10 | 7. 本の紹介 「請戸小学校物語 大平山をこえて」 | 千葉雅子 |
| | 8. 新入会員自己紹介 野村幸弘、河野繁 | |

1. 2022年活動方針の中から

理事長 真砂 文夫

KECAは2022.5.14に開催したKECA総会の中で発表した活動方針の紹介をいたします。

総会のスタイルは、**当時はまだ**コロナ感染者数が大阪と拮抗し、首都圏で常にNO.2の位置づけにありリアル総会の開催は望めませんでしたので**初めてハイブリット型の総会**とし、会場には本部役員7名だけの参加としました。

2022年度の活動方針は8つほど掲げましたが、その中で対外的な活動連携が1つ、内部の活動2つをご紹介します。

(1) 2022年から環境カウンセラー全国連合会(ECU)が環境カウンセラーの全国総合窓口となりました。全国 EC の母体である環境カウンセラー全国連合会(ECU)が2022年度から「全国環境カウンセラーの教育制度・表彰制度の運営」に加えて、「環境カウンセラーの新規受験者の審査・登録、更新業務を受け持ち」、文字通り「環境カウンセラーの総合窓口」となることが決定した。今後は環境カウンセラーの将来の姿についても考え、環境省に働きかける役割を持つ親団体」に変貌することになります。

現在、KECAも会員数が減少し問題になっております。また、最近高齢化も進み業務中止を理由にした退会の声も目立って参りましたので、これを機会に皆さんの力を借りて、環境教育インストラクターセミナー開催の機会、ホームページの会員募集の仕組み等の活用等を進め、あらゆる手段で、会員による募集活動を強めたいと考えております。

また、ECUには全国4600名強の環境カウンセラーデータベースがあります。これを活用した新たな勧誘方法も構築できるものと思いますので期待して会員増に取り組んでいきたいと思っております。

(2) 神奈川県が取り組む「**かながわSDGsパートナー制度(第6期)**」に応募し**登録が完了しました**。

神奈川県庁が登録を推進するSDGsパートナー(2021/10現在、502社の企業・団体が登録済)に応募しました。結果は**5月下旬登録が認められパートナー団体として認証されました**。

この後は、登録されたパートナーとの連携と「神奈川県庁の後押しを受けて県内のSDGsに関する企業・団体等の取組みを促進させる活動の主役となる活動を開始します。

KECAではSDGsにこの3年間取り組んできた活動をホームページに「SDGsの取組み」として紹介ページを立ち上げ、広くお客様から問い合わせを頂ける仕組みを構築しております。このSDGsの登録認証をきっかけにKECAへのコンサル・セミナー・勉強会等の案件を増やしていきたいと思っております。期待して進めてまいりましょう。

(3) 2022年の事業計画の1つとして、「**新生KECAを目指して(中期計画の構築)**」を、皆さんと共に1年かけて作成し、「**2023-2025年の中期計画の推進**」を目指します。

2020年から取り組んできた「KECAの組織基盤強化に向けてのプラン」が「**新生KECAを目指して(組織基盤強化にむけた中期計画の策定)**」という形で、その取り組み方がプランニングされました。

今後は、2022年度を具体策づくりの1年と位置づけ会員の皆さんと掲げた施策の具体化を進め、2023年の総会を中期計画のスタートとして施策を発表する計画です。会員のみなさんのご支援を期待しております。

2. 「会員の自主的活動ができる体制づくり」 ～プロジェクト制のプラットフォームをつくる～

組織基盤強化グループ 河野健三

1) 組織基盤強化グループの活動経緯

- (1) 2020年5月に横浜市から組織基盤強化助成金を受領し、組織検討部会・研修部会・Web部会の3つの作業部会を設置。組織検討部会で8つのプロジェクトを立ち上げる。
- (2) 2021年総会で役員改選により新体制発足。3つの作業部会を組織基盤強化グループに集約。
- (3) 2021年5月に会員意向調査を実施し、9月4日・5日に【KECAの足元を固める】ZOOMミーティングを実施した。

2) 8つのプロジェクトの活動状況

- (1) 2021年度の活動状況は総会資料によるが、活動ができたもの、できなかったものがある。プロジェクト No.6の「KECA(活性化のための)オープンミーティング2020」は4月3日に終了し、2022年度は推進者が休会となったため、継続可否を含め検討する。
- (2) 2022年度は上記プロジェクト No.6を除き継続するが、中期計画の策定を進める中で各プロジェクトのKECA内での位置付けを含め検討を進める。

3) プロジェクトの2022年度の進め方

- (1) 組織基盤強化グループの活動目標は冒頭に掲げた「会員の自主的活動ができる体制づくり」を目指しプロジェクト制のプラットフォームをつくる、としたい。
- (2) 2022年度計画は総会資料によるが、個別プロジェクトのテーマ名は次の通り。

No.	個別プロジェクトのテーマ名	テーマ推進者名
1	環境に関する資料集を作成	石井 員良
2	中小事業者向け環境セミナー	大竹 順之
3	SDGsによる企業の統合システム構築支援	河野 健三
4	KECA支援チームによるワンストップ中小企業の経営支援	近藤 勝養
5	KECAニュースの発信力を高める	千葉 雅子
7	中小企業のSDGsに向けた環境改善事例	守谷 喜芳
8	KECAにとって身近な地域貢献活動のリスト化・情報共有・活用	杓谷 信一郎
9	中小企業参加型SDGs関連プロジェクト	河野 健三

注) No.6の「KECA(活性化のための)オープンミーティング2020」は終了し、No.9の「中小企業参加型SDGs関連プロジェクト」は2022年度に立ち上げる。

4) テーマ推進者からのコメント (2022年度の進め方)

PJ No.1 環境に関する資料集を作成 石井員良

- ・組織基盤強化プロジェクトテーマ「環境に関する資料集を作成」は、KECAの会員が、KECA内外を問わず、提供できる環境に関する情報を資料集としてまとめることで、活動の内容は、

「KECA 会員が自分の興味がある或いは得意な環境の分野からテーマ（廃棄物処理、化学物質、生物多様性、排水処理、排ガス処理、プラスチック再資源化など）を選んで資料集を作成する。」というものです。

- ・今までのテーマは、①化学物質について、②化管法について、③環境教育と環境経営で人材育成を目指す KECA の取り組み、④KECA 有志による福島研修旅行報告、⑤平成26年度学校給食用牛乳びんの導入支援に向けたモデル事業の実証事業報告書と PPT 資料、その後の活動などがあります。今年度予定しているテーマは、①化管法改正、②化学物質の自主管理などです。

PJ No.3 SDGs による企業の統合システム構築支援 河野健三

- ・企業はそれぞれ独自の経営システムを持っているが、同時に環境・品質・安全等様々な個別の認証システムを実施している。SDGs をツールとして活用して、これら個別のシステムを企業独自のシステムに統合する構築支援を行う。

PJ No.7 中小企業の SDGs に向けた環境改善事例 守谷喜芳

- ・中小企業が SDGs の活動に取り組んでいるところが多くなっています。企業の中心テーマにしているところや、進めている事業を SDGs の目標に当てはめているところもあります。当プロジェクトは、いろいろの企業の SDGs に取り組んでいる事例を揃えていき、SDGs で更に効果を上げたいがどうすれば良いのか、SDGs をどのように始めれば良いのか等について、新しい理解や洞察に自発的にたどり着くように、カウンセリングします。興味のある人は、一緒にカウンセリングを行いましょう。

PJ No.8 KECA にとって身近な地域貢献活動のリスト化・情報共有・活用 杓谷信一郎

- ・組織基盤強化プロジェクトとして一昨年提案した「神奈川県内NPOによる地域貢献活動のリスト化」について、昨年検討を進め、対象を会員に関係する身近な活動団体に絞り、皆様に調査のための一斉メールを送りました。
- ・市民部門と事業者部門の環境カウンセラーが共同で調査して情報共有化を図り、ツールとして神奈川県内地域貢献活動マップを作成し、ホームページ上やチラシとして公開し、地域貢献活動における企業と市民活動の協働や市民の参加を推進させることを目的とします。
- ・自治体の持つNPO情報の利用ではなく、協力の得やすい身近な団体からのリスト化を目指した結果、11団体にまとめました。そして、浜定例会で調査結果を報告し、意見交換しました。
- ・現状11団体では神奈川県内を網羅できない状態ですが、今後、情報公開と共に、活動団体同士の連携を図り、リストを増やしていくことを考えています。そのためには、調査した団体の活動に参加し、現地情報を収集していくことが重要だと思います。また、この活動を通して、会員内の情報共有と交流が促進されることを期待したいです。

PJ No.9 中小企業参加型 SDGs 関連プロジェクト 河野健三

- ・「地域の課題解決に貢献する企業になる」ことを目標に、中小企業を対象とした SDGs 関連のプロジェクトを調整するミーティングを行う。

3. 新任理事の紹介

(1) 新任理事 岸 高志

2014年にエコアクション21の審査員となり、エコアクション21地域事務局かながわのご紹介でKECAに入会しました。KECAでは横浜支部、環境管理委員会、化学物質委員会に所属し、現在はエコアクション21審査員として活動しています。

世界を見ますとカーボンゼロに向けたゲームチェンジが行われカーボンニュートラルによる産業構造の転換が始まっています。二酸化炭素排出量の削減を環境経営目標を取り入れているエコアクション21は、それにフィットしたマネジメントシステムであり、また、KECAの活動は益々の飛躍が期待されていると考えます。微力ではありますが、少しでもKECAの活動のお役にたてればと考えます。以下にkateraworthの社会と地球の境界のドーナツを示します。「社会的な土台」と「環境的な上限」の間にあるのは「人間のための安全で公正な空間」。その内側と外側は現代の人類の不足と過剰の程度を示しています。気候変動など4項目はすでにその境界を踏み越えています。このドーナツを念頭にKECAの活動に取り組みたいと考えます。

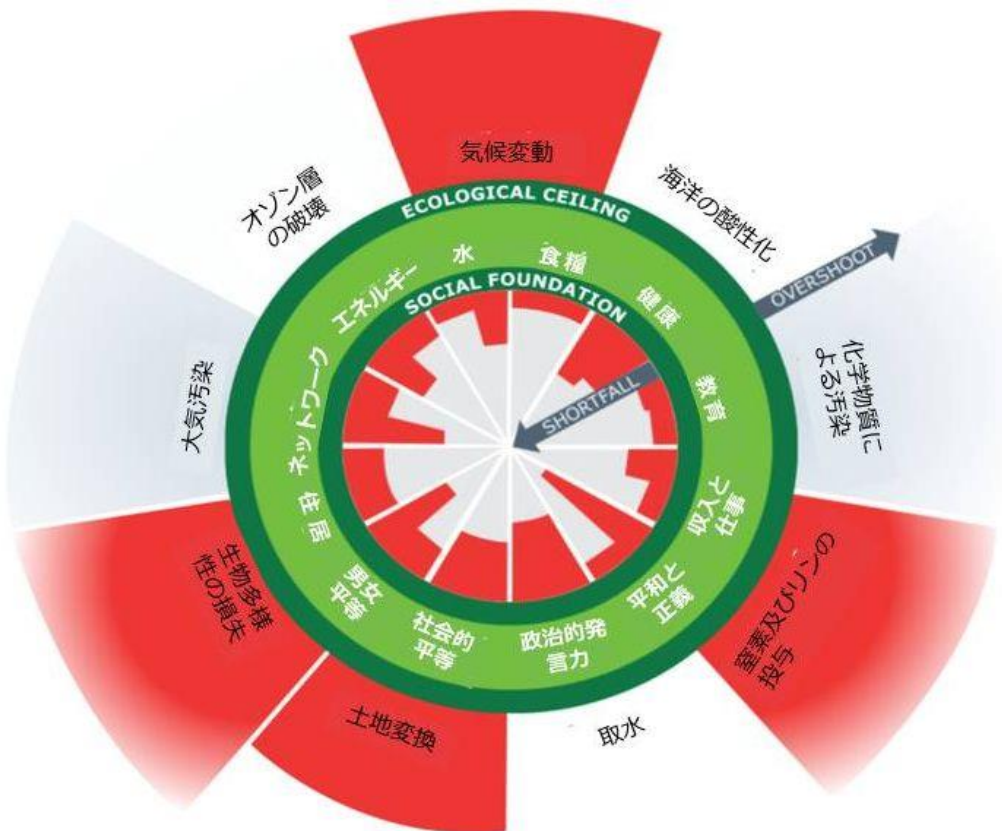


図 社会と地球の境界のドーナツ

(<https://www.kateraworth.com/doughnut/>より作成)

(2) 新任理事 山口和之

「MOTTANAI～未来に紡ぐ子どもたち～」

MOTTANAI この言葉を聞いたことがありますか？私自身、幼い時（今から〇十年前）に、母親から言われた記憶があり、今でも頭に焼き付いています。そんな私が、今の子どもたちに、環境教育の

一つとして教えているのですから、不思議なことです。特に、この授業で、依頼されて授業をするときは、力（りき）が入ります。ちなみに、皆さんは、どのようなきっかけで、環境の分野に足を踏み入れたのでしょうか？また、どのようなことを、得意としていますか？私は KECA に入ってから3年になります。この組織団体が、どのようなものかわかりません、どのような人が所属しているかも全然知りません。MOTTANAI 話です。では、私自身についてほんの少しだけ話したいと思います。現在は、（公共の）教育委員会の非常勤職員で、主に小学校の理科、生活科、図工、体育を教えています。時々、社会科も。その傍ら、科学実験教室、科学実験ショーに行ったり、出前授業として、科学分野やスポーツ（パラスポーツを含む）で日本のあちこちに、出向しています。その中には、環境も入っています。そして、このコロナの影響で、延期や中止になり、出向くことが無くなりました。皆さんは、コロナの影響、どうでしょうか？かなり、影響を受けたのでは、ないでしょうか！

こころでちょっと休憩をしたいと思います。



MOTTANAI 釈迦に説法かもしれません。みなさんは、今、どのようなものを想像しましたか？それは、まだ使えたり、食べられたりしますか？

MOTTANAI 100円ショップや携帯電話が出始めた時から、この言葉をあちこちで聞き始めるようになったと思いませんか？

MOTTANAI 私がちょうど就職したときは、平成元年（昭和64年）です。ちょうど建設ラッシュでバブルと呼ばれた時です。多くの人たちが、お金の酔っていた時です。

MOTTANAI 戦争を知らない世代です。なのに、何故か今の子どもが夢中になって遊ぶのは、戦争、格闘技などの相手を傷つけるものばかりです。それを作っているのは、自分の世代というから不思議です。

MOTTANAI この言葉は世界共通の言語（ことば）だと知ったら、皆さんは、どう思いますか？

TUNAMI やはり世界の言葉です。危機を感じるのは、私だけでしょうか？

MOTTANAI 義務教育の過程での学校（小中学校）では、あまり気にしていないみたいです。だからこそ、大声で話さないといけないと私は実感しています。

MOTTANAI 今からでも遅くはない話ですが、そこには大きな壁が立ちふさがっています。かと言って逃げるわけにはいかない。

MOTTANAI このコロナで世界が振り回されています。今でも。身近な人たち次から次へと、又は大切な人たちが逝ってしまうのは、辛いです。

MOTTANAI 最後にこれ以上にたくさんの MOTTANAI 話しが有ります。もし、気に止めたら良いです、次の一步を踏み出しませんか？

4. 【環境教育委員会の活動報告】

神奈川県環境・エネルギー学校派遣事業として、SDGs をテーマに出前授業を実施した

令和4年5月16日（月）に横浜市立新吉田第二小学校で「SDGs から地球環境問題を考える」をテーマに、6年生2クラス72名に出前授業を実施した。

コロナ感染が落ち着いている状況であったので、グループ討議が許されたが、それでも児童たちが密にならないよう、広い体育館で6グループに分かれて授業を進めた。

地球環境問題として暮らしに密着した地球温暖化問題とごみ問題及び児童に関心の高い生き物問題の3つにしぼって、授業の前半はこれらの問題の画像とクイズを交えて、何が問題か？紹介した。さらに SDGs については8項目にしぼり、SDGs が取り上げられた問題の背景を説明した。後半は各グループが3つの環境問題のうち1つを取り上げ、5～6人で議論しながら環境問題と SDGs との関係を見出した。これらの討議を通してどんなことに気づいたか？自分たちができることは何かについて話し合った。

最後にグループごとに発表し、講師との Q&A で発表内容の深堀をした。

児童の自由記述からは、SDGs は身近なものだと思った。思ったより世界は深刻な状況である。自然環境をもっと大事にしたい。地球温暖化をできる限り止める、など問題のスタートの認識を児童はできたようである。しかし、前半の地球環境問題と SDGs については説明に終始し、児童にはやや飽きが来たようで工夫が必要であった。また具体的な行動を起こすための呼びかけがやや少なかったかと思う。

横浜市が開催する地球環境問題のスピーチコンテストに応募する題材を見つけることとスピーチとしてまとめることを目標にしているとのことで学校と児童の意気込みを感じる授業であった。



密にならないように広い体育館で講義とグループ討議と体験を実施しました

グループ毎に地球環境とSDGs のつながりを発見し、SDGs 達成のポイントを議論しました

議論したことを模造紙にまとめ発表しました。講師との Q&A を通して内容の深堀をしました

(文責 岡本)

5. KECA 会員「田中真次さん」とその活動の紹介 大竹 順之

KECA のみなさん、田中さんをご存知ですか？にこやかな笑顔と自然に対する深い知識に基づく楽しい語りを活かして、大活躍されています。その活躍ぶりをご紹介します。

大手外銀勤務を退職してから猛勉強して、「森林インストラクター」の資格を取り、環境カウンセラーの市民部門の資格を持って、2013年KECAに入会しました。

田中さんに活躍の機会が巡ってきたのは、400年続く地主さんから、横浜市戸塚区にある里山の復活について相談を持ちかけられたのがきっかけでした。日本の原風景ともいえる里山は、本来人間の手が入ることによって維持されてきた二次的な自然です。しかし、農家の高齢化などで放置されると里山林や畑には、笹や竹が侵入・密生し、樹木の立ち枯れ、下層植生の劣化を招き、落葉樹林に生育していた野草、昆虫、動物も見られなくなり、常緑樹優占の暗い森になってしまいます。

田中さんは、約2万坪の里山復活を目指して、2015年秋から森林インストラクターの仲間や地域住民のボランティアと共に、繁茂している竹林の伐採・整備から始めました。2016年4月に任意団体「名瀬谷戸の会」を設立し、自ら率先して、定例作業日に汗を流すと、日光が当たるようになって、埋土種子が芽を出し、絶滅危惧種や希少種を発見する喜びを、仲間と分かち合えるようになりました。元々、この里山は横浜市から「特別緑地保全地区」に指定されており、このような着実な保全管理作業により豊かな生物多様性を持つ里山本来の姿を現すようになりました。

これらの里山復活活動と共に、地元の小学校の出前授業や里山での自然観察会を行う地元密着型の活動を実行された結果、現在、会員数は130名を超えました。見学や授業でこの里山を訪れた児童に勧められて、親が家族ぐるみの会員になることが多いそうです。会員と共に、道具小屋制作、ピザ窯の設置、メダカ池の整備、ミニ田んぼによるコメ作り等、陣頭指揮をしています。

学校のプログラムを実施するときのポイントとして田中さんは、「親しみやすく、子どもたちとの壁を作らないために、ニックネームで呼んでもらう。」「最初のアイスブレイク」を、強調されました。これから取り組みたいこととして、「不登校、引きこもりの子どもの支援」や「障がいを持つ人の活躍の場をつくる」を考えているそうです。そこへ、嬉しいニュースがありました。この里山にある「久右衛門邸」というレストランが3年がかりでリニューアルされ、バリアフリーの建物で、障がい者3人を含む10人がおもてなしをするフレンチレストランになり、5月17日にオープンしました。障がい者が就労体験を積み、自立への道を歩めるようにすることを、目指しているそうです。

筆者も、名瀬谷戸の会の一会員として、田中さんの活動に協力していきたいと考えています。



立派に整備された竹林



竹を使った工作実習



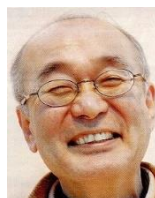
子ども里山体験班による
ヤマユリの保護活動



メダカ池には、いろんないきものが



今年も始まった田起こし



6. 各国 GDP 当りの CO2排出量の推移の見える化

岩村順雄

SDG s の各テーマの各国地域の実現の評価は膨大な統計を使って進められています。

ここでは各国/国連等の取りまとめ機関が、自国地域のデータを正しく申告していることを前提として、各国の長期にわたる GDP 当り CO2排出量の推移を見える化しました。

なお各国のCO2排出量の推移についても長期のデータがありますが、ここではGDPとCO2排出の量的な関連を見るための一つのデータとしてご覧ください。

1) 目的

中国・米国・日本を含むG20をベースとした24の国地域の名目GDP当りCO2排出量推移を1975年～2019年で見える化する。

2) 手順 ここでは初回として比較のもとデータ(数値表)から自分なりのグラフ化が容易な、下記のデータソースを使ったので、この場合の手順を参考に記します。

この種のデータは国連をはじめ各国のシンクタンクなどが、夫々の得意分野でデータまたはグラフを公表しています。

- ① GlobalNote 社 国際比較データ – 国際統計 Global Note の「国際比較統計」を開く
- ② データを見るだけならログインしなくても見えますが後の作業上必要なのでログインする
- ③ 国際比較統計カテゴリの中の環境・温暖化ボタンを押す
- ④ GDP当りのCO2排出量(IEA統計)のページを開ける
- ⑤ 「詳細機能・推移データページへ(時系列推移・グラフ化・Download等)」のボタンを押す
- ⑥ 対象年・対象国を選択し、「選択データ表示」ボタンを押す
- ⑦ 表示データダウンロードの「表形式(CSV)」ボタンを押す
- ⑧ ダウンロードの「ファイルを開く」を押す
- ⑨ エクセルでデータが出る
- ⑩ 以下はエクセルの加工法で見える化する
- ⑪ 見えてきたものがあればコメントとして書き加え、さらに調査・考察する

3) 計算とグラフ化の具体例

「名目GDP当りCO2排出量 単位 kg/US\$」の表につきましては、KECAのホームページにてご覧ください。

4) 応用方法

各国のGDPをはじめ国際統計が広く収集されているのでその都度それぞれのエクセルデータを組み合わせることで自前のグラフを作ることができる。

7. 本の紹介 「請戸小学校物語 大平山をこえて」 千葉 雅子

福島・浪江町にある「請戸小学校」の1日のおはなしです。千葉県の環境カウンセラー倉田 智子さんから寄贈して頂きました。是非ご覧になってください。

15メートルを超える津波に襲われた福島県浪江町請戸地区は住民の1割近くが死亡・行方不明になった一方、町立請戸小学校では1キロ先の山に逃げた児童・教職員95人全員が助かった。

8. 新入会員 <自己紹介>

  ～～ 新入会員 野村 幸弘


5月27日に入会いたしました野村 幸弘と申します。

入会のきっかけは、エコアクション21の審査オブザーバーのご縁で、守谷さんと武内さんから、


KECA をご紹介いただきました。KECA に入会し、活動に参加することで、審査オブザーバーのサポートを受けられるとアドバイスをいただき、入会いたしました。

経歴は、電線・ケーブル製造会社で、技術課、品質保証課を経て、ISO 9001と14001の事務局を25年担当し、昨年2月に定年退職しました。

ISO 9001と14001の認証取得から、両規格の改訂の対応をした仕事の経験をもとに、エコアクション21の審査を通じて、中小企業の環境経営に貢献したいと考えております。

ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。 ～～ 

～～ 新入会員 河野 繁

KECA の皆様こんにちは！！ 環境カウンセラー（事業者部門） 河野 繁 です。事務局の方より、新人の自己紹介を依頼されましたので、雑駁ではございますが、自己紹介 させていただきます。現在、厚木市に本社のあるエンジニアリングメーカーに勤務しております。神奈川に在住し30年を超えました。環境カウンセラー（事業者部門）に認定されたのは、2011年4月、39歳の時でした。昔から環境問題に関心がありました。これからは、KECA の皆様のお力添えをいただきながら、『見えるカタチ』での環境活動に取り組んでいきたいと考えております。『一期一会の精神』を大切にしながら、日々精進していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。 ～～ 

【会員募集中】

当会は、中小企業の環境活動支援、地域の小学校等への環境出前授業、行政等と協働する市民環境活動を展開しております。環境活動に興味のある方、私たちと一緒に活動して頂ける方を募集しております。当会の活動内容は、ホームページをご覧ください。当会には、支部、委員会がありますので、仲間と共に興味に沿った活動ができます。これまで培った経験、知識を是非生かしてください。

【編集後記】

かけがえのない地球を未来の世代に受け渡すために、当協議会はコロナの収束と世界平和を願い、皆様のご要望にお応えできるように活動してまいります。（千葉）

表紙画像について；理事の中村城治氏が撮影した江の島の夕日です。

〔発行〕特定非営利活動法人

かながわ環境カウンセラー協議会（KECA）

理事長：真砂文夫 / 編集人：千葉雅子

◇住所：〒231 - 0001 横浜市中区新港2 - 2 - 1

横浜ワールドポーターズ6階 NPO スクエア内

◇電話：045-226-5822 FAX：045-226-5825

◇Eメール：37keca@kke.biglobe.ne.jp

◇URL：https://keca-kanagawa.jimdo.com/